

You, Unlimited

Faculty of

International Studies



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学
国際学部

2026

Crossing Borders, Creating the Future

#多文化共生 #多様性 #グローバル
ゼーション #ジェンダー #国際開発
#国際協力 #エシックス #教育 #人
権 #宗教対立 #紛争と戦争 #貧困
#地球温暖化 #移民難民問題 #食
料不足と飢餓 #オーバーツーリズム

「ボーダー」を飛び越え、 未来を創る

世界は、今、戦争や紛争・貧困・環境汚染・気候変動など様々な地球規模の課題に直面しています。

龍谷大学国際学部では、異なる価値観やバックグラウンドがもたらす分断(境界)を飛び越え、文化や社会の多様性を理解し、自分事として未来をきづいていくことのできる人材を育成します。



Projects #1

▼ 解決をめざす「社会課題」

多文化共生への理解

安達 優さん

国際文化学科 2年生
(大阪府 大阪桐蔭高等学校 出身)



安藤 心寿さん

国際文化学科 2年生
(大阪府立清水谷高等学校 出身)



友永 雄吾 准教授

国際文化学科
[専門分野]
社会・文化人類学、オーストラリア
先住民研究



オーストラリアで見た 多文化共生が導く未来

多文化国家オーストラリアで 多民族共生の可能性を追究

オーストラリアと聞くと、コアラやカンガルー、広大な自然や温暖な気候をイメージするかもしれません。しかし、オーストラリアの背景には多彩で深い歴史と文化があります。1970年代に英国からの移民を中心とした「白豪主義」から中東やアジアからの移民を受け入れる「多文化主義」へと転換し、現在では人口の約30%が海外生まれです。一方で、5万年以上前から住む先住民の文化も根付いています。この研修では、移民や先住民の日常生活から社会の実態に関する学びを深めます。メルボルン大学やビクトリア大学で先住民研究者や学生との交流が行われ、地方都市では、先住民のためのチャイルドケアセンターや医療機関、国立公園を訪れ、先住民スタッフの支援活動を通じて、多文化社会の理解を深めます。

海外フィールドワークで 研究力の基盤を築く

この研修のテーマは「出会い」、「気づき」、「変容」です。現地でのさまざまな出会いや経験によって、現代のオーストラリア社会における排除と包摂のプロセス、さまざまな民族間の共生の可能性までを探っていきます。また、日本の社会にも目を向け、自国における多文化・多民族共生についても考察を深めていきます。多文化共生への深い理解のほか、この研修には、研究の基礎力を養うという、もう一つの目的があります。事前学修や現地フィールドワークによる調査テーマの決定から実施、事後学修での発表やレポート作成まで、一連の研究プロセスを学ぶ機会でもあります。国際文化学ならではのリアルな海外体験を通じて、国際的な視野を広げる「鳥の目」と、国内の課題に向き合う「虫の目」、さらには時代の流れを読み解く「魚の目」を養うことができます。これらの経験は、今後の演習や卒業論文執筆、さらには、社会に出てからも必ず役立つと確信しています。



先住民との交流を通じて 文化の多様性を体感

私たちは10日間のオーストラリア文化研修で、現地の先住民について多くを学びました。ビクトリア大学とメルボルン大学で、先住民の歴史や文化、現在の社会的立場などを学んだあと、地方都市に移動し、メルボルン大学がサポートする若者支援プログラム「ASHE」の学生たちとの交流をとおして相互理解を深めました。特に印象的だったのは、バルマ森林でのブッシュウォークです。先住民レンジャーから伝統的な自然とのかかわり方を学び、「aboriginal」の文字が書かれた看板を見たときには、レンジャーの「私たちは間違いなく存在している。そのことに誇りをもっている」ということばに深く感銘を受け、私も日本人であることにもっと自信をもちたいと思いました。また、先住民の間で代々受け継がれてきた、樹上有袋類ポッサムの毛皮を何枚も縫合して作成するガウンの物語やバスケットの編み物体験をとおし、オーストラリアに長らく根付いてきた伝統文化を肌で感じることもできました。

多文化共生社会の実現に向けて 新たな価値観との出会い

今回の海外研修は、狭い島国に住む私たちにとって、多文化理解の本質を考える貴重な機会となりました。学べば学ぶほど知識がたがり、多文化への理解が深まっていくのを実感しました。日本に住んでいる私たちは、自らの意思によって外国人とのかかわりを避けることも可能です。しかし、オーストラリアでは、異なるバックグラウンドをもつ人たちが共生しています。グローバル化と少子高齢化が進む現代において、この先日本も多文化国家になるかもしれません。自分のアイデンティティに誇りを持ち、現代社会で活躍している先住民のように、私たちもこの国に生まれたこと、日本人であることに誇りを持ちながら、他国の人々を尊重し異なる価値観を受け入れる、多様な視点と柔軟な思考力を養っていく必要があるでしょう。外側から改めて自国の良さを見つめ直すという意味でも、非常に有意義な経験でした。

Projects #2

▼解決をめざす「社会課題」

画一的な働き方からの解放

川口 茂恵さん

グローバルスタディーズ学科 3年生
(大阪府立市岡高等学校 出身)



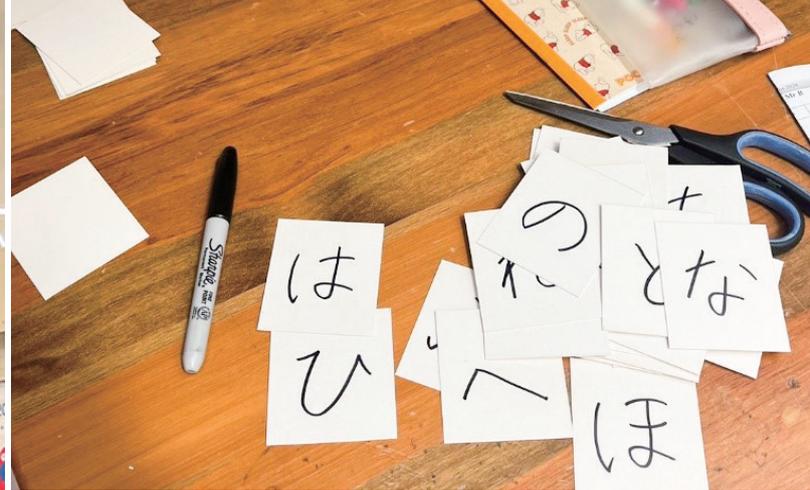
インターンシップ・アブロードが示す 自分らしく輝ける未来への道

海外の教育現場で得られた 新たな視点と気づき

海外で就労するという目標をかなえるため、ニュージーランドのパーマストンノースにあるアワタブカレッジで日本語授業のアシスタントを務めました。授業では生徒の質問に答えたり、学習の補助をしたりしながら、一人ひとりの様子を見守りました。積極的に手を挙げて質問する生徒は比較的少なく、難しいと感じている表情の生徒には自分から声をかけるよう心がけました。授業外でも、漢字やひらがなを覚えるためのカード製作や、日本にまつわるクイズの作成など、生徒がより楽しく日本語を覚えられるよう工夫を重ねました。毎週火曜日のランチタイムは、日本のドラマを教材にして生徒と一緒に日本語を勉強し、折り紙を教えるなどの文化交流も楽しみました。特に印象深いのは、想像以上に多くの生徒が日本語学習に高い意欲をもっていたことです。授業に真剣に取り組む姿や、楽しそうに学ぶ様子に刺激され、私のモチベーションも高まりました。

コンフォートゾーンを飛び出して 見つけたキャリアの可能性

インターンシップに挑戦すると決意した当初は、自信のなさや戸惑い、不安で押しつぶされそうでした。悩みを解消できたのは、先生や大学の手厚いサポートのおかげです。「やってみることが大切」「人生に無駄な経験はない」「どんな経験も結果として表れる」と力強いことばで私を励まし、背中を押してくださいました。大学の奨学金制度で経済的な不安も軽減され、思い切って海外に飛び込むことができたのです。その結果、「大手企業への就職」「新卒で働くのが当然」といった日本の固定観念から解放され、より柔軟なキャリア観をもてるようになりました。一番大きな変化は、まったく考えていなかった日本語教師という職業に魅力を感じるようになったことです。現地での交流を通じて、社会が「正解」とする生き方にとらわれず、自分なりの価値観でキャリアを築いていく勇気と自信を得られたことは、私にとってかけがえのない財産となりました。



現地での苦勞を乗り越えて 実感した自分自身の成長

渡航前は、とにかく英語力の向上に努めました。洋画や洋楽にたくさん触れ、ニュージーランド特有の発音になれるよう、現地の映画を探して視聴しました。また、日本語を教えている人の動画を見て研究し、先輩や友人からもアドバイスをもらいました。万全に準備して臨んだつもりでも、実際はニュージーランド特有の英語のアクセントに戸惑い、現地の人との会話を理解できない悔しさがありました。日本語の細かな言い回しを英語でどう表現すれば良いか、今まで考えたことさえなかった課題にも直面しました。それでも、ジェスチャーや視覚教材を活用することでさまざまな困難を乗り越え、現地の人々との交流を通じて、より豊かなコミュニケーションの手法を身につけることができました。語学力や会話力が向上したのはもちろん、多様な価値観を受け入れられるようになり、視野も確実に広がったと自負しています。

世界を知ることで広がる 私らしいキャリアの形

私は「自分にできるだろうか」と強い不安を抱えながら、未知の世界に飛び込みました。自分のコンフォートゾーンから外れた社会に身を置くことで、必ず新たな気づきや学びを得られると思ったからです。実際に今回の経験は、自己成長をもたらしただけでなく、グローバルな視野や柔軟な思考力、新たな挑戦心も養ってくれました。世界を見わたすと多種多様な社会や文化、慣習が存在し、まだまだ知らないことがたくさんあります。ニュージーランドでのインターンシップも、広い世界を知るその第一歩にすぎません。今後も海外へ赴くことでさまざまなものを吸収し、いずれは私自身が本当に住みたいと思ったその土地で、自分なりのキャリアを積んでいきたいと考えています。挑戦することの偉大さを学んだ今、「迷った時はより勇気が必要な方へ向かう」という信念にもとづき、後悔のないよう一つずつ着実に夢をかなえていこうと思います。

Projects #3

解決をめざす「社会課題」▼

社会に対する無知

山口 京夏さん

国際文化学科 3年生
(静岡県立焼津中央高等学校 出身)



異文化との出会いが私を変えた 海外で実感した日本人の課題 世界の課題から目をそらさず 自ら積極的に行動を起こす

留学先のリトアニアで気づいた 私たち日本人が果たすべき責任

私がリトアニアへの留学を決めたきっかけは、学内でリトアニア人留学生のゲルダさんと出会ったことです。彼女を通じて、日本へ深い愛情をもつリトアニアという国の存在を知り「この知られざる国を知り尽くしたい」との思いで交換留学に挑戦しました。しかし、現地で衝撃を受けたのは、私自身が「無知」であるということでした。海外の学生は自国の歴史や世界情勢について豊富な知識をもち、活発に議論を交わします。特にウクライナ危機に対する現地学生の深い知識と理解は、遠い国の出来事としてとらえがちな日本人との大きな違いでした。さらに、現地の若者たちは政治にも熱心で、自国の将来について真剣に考え行動を起こしていました。一方、日本の若者の低い投票率に象徴されるように、私たち日本人は政治や社会問題に対して「関係ない」という態度をとりがちです。この「平和ボケ」から目覚め、世界の一員としての自覚をもたなければと痛感しました。

ニセコでのインターンシップが 社会課題の解決に向けた第一歩に

この気づきを活かすため、帰国後すぐに北海道ニセコでのグローバルインターンシップに参加しました。「雪ニセコ」では、多国籍な職場での業務に加え、地域の多文化共生に関する調査も行いました。特に印象的だったのは、ゴミ問題や生活習慣の違いなど、地域が抱える具体的な課題に対して住民同士が対話を重ねながらユニークな解決策を見出していく姿です。異なる文化背景をもつスタッフが互いの違いを受け入れ尊重し合う環境は、グローバル化が加速する社会での新しい働き方のモデルになるかもしれません。日本にいながら世界とつながるニセコの特徴的な社会のなかで、改めて積極的な異文化理解と情報発信の重要性を実感しました。これらの経験が契機となり、多国籍の人々とともに働くグローバル環境で自分を高め、視野を広げていきたいという目標も明確になりました。「成長し続ける私」であるために、自分の気持ちに素直になって挑戦し続けます。





アメリカ映画の聖地で 描き続けた夢への第一歩を踏み出す

私には、将来アメリカの映画業界で働きたいという夢があります。留学先もアメリカの文化、映画業界への理解を深めるという観点から学校を絞り、ピクサーやルーカスフィルムの拠点となっている地域、カリフォルニア大学バークレー校を選びました。今回の留学は私にとって初めての海外経験で、渡航前は不安がありました。そうした不安を払拭できたのは、留学サポートデスクの手厚いサポート体制のおかげです。ビザ申請から現地での生活まで細かなアドバイスをいただき、先輩方の詳細な帰国レポートを読むことで留学生活をイメージできるようになりました。現地では映画に関する専門的な授業を受講し、業界で働くのに欠かせない実践的な知識と、めざす進路を実現するための具体的なステップを学びました。大学での学びや経験はどれも、私が描く未来に直結するものばかりでした。今回の留学で当初の目的は100パーセント達成できたと自負しています。

日々の小さな挑戦が 夢の実現に向けた大きな自信に

留学生活における最大の気づきは、完璧でなくても「自分のできる範囲で最善を尽くす」姿勢が重要だということです。そこで、授業の内容を理解するのが難しいときは、オフィスパワーを活用して質問を重ね、自分なりの解決策を見出していました。そうした日々の小さな努力が大学での評価につながり、「積極性」という項目で良い成績をいただくことができました。異文化との出会いを通じて得た、異なる価値観を柔軟に受け入れる力も、きっとアメリカで働く将来に役立つに違いありません。この留学を経験していなければ、映画業界の実態や採用基準もわからず、夢への道筋も見えずにいたでしょう。それが今は、アメリカのフィルムスクールへ進学し、アメリカの映画会社に入社するという明確な目標ができました。長年の夢を現実のものとするために、今後も映画研究に力を注ぎ、語学力のさらなる向上に努めたいと考えています。



Projects # 4

解決をめざす「社会課題」▼

グローバルなキャリア形成



西口 幸希さん

グローバルスタディーズ学科2年生
(京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身)

映画の聖地アメリカで
見つけた夢への道筋
一歩ずつ積み重ねた自信が
未来を明るく照らす

Hot Topics

国際学部の取り組み

1

GS IC

留学しやすい学修環境

グローバルスタディーズ学科

「英語を学ぶ」から、「英語で学ぶ」へ 正規専門科目受講をめざす提携留学

グローバルスタディーズ学科は、1セメスター以上の留学[※]を必修にしています。本学科の提携留学は、海外大学の附属機関で英語を学ぶ「語学留学」のほかに、現地の一般学生と同じ授業を履修する「正規専門科目受講」をめざします。滞在先もホームステイやキャンパス内の学生寮を予定していますので、大学生同士の交流も自然に行われます。

[※] 留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。

国際文化学科

国際文化学科では留学を必修としていませんが、強く推奨しており、留学先の学修成果を国際文化学科の単位として認定することで、4年間での卒業が可能な留学制度を整備しています。また、1セメスター以上の長期留学(私費・交換)では龍谷大学の授業料を免除[※]するなど、経済的なサポートも充実させています。

[※] ただし、留学在籍料(半年あたり15万円程度)と諸経費の納入が必要です。

【提携留学先一覧】



【アイルランド】
ユニバーシティ・カレッジ・コーク



【アメリカ】
カリフォルニア大学バークレー校



【アメリカ】
南カリフォルニア大学



【アメリカ】
南ミズーリ州立大学



【カナダ】
アルバータ大学



【カナダ】
ランガラカレッジ



【カナダ】
レイクヘッド大学



【オーストラリア】
タスマニア大学



【オーストラリア】
ディーキン大学



【ニュージーランド】
ワイカト大学

2

GS

「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」で海外インターンシップに挑戦

グローバルスタディーズ学科では、必修留学を終えた学生の次のステップアップとして、「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」を開講し、将来海外で活躍したい学生の実践の場を提供しています。本講義では、企業や国際機関、行政組織やNGO/NPOなど幅広い職業分野における海外でのインターンシップに2週間～6週間程度(合計就労時間40時間以上)従事します。インターンシップの事前・事後では、ビジネスマナーやメール・履歴書の書き方、海外渡航先で起こりうる問題にどのように対応していくかについてを学修します。また、インターンシップ前後の学生が一緒になり、相互の情報共有や学び合い(ピア・エデュケーション)を実践します。



GS グローバルスタディーズ学科

IC 国際文化学科

3 IC 2年次以降のカリキュラムを自身でコーディネート

2023年度国際文化学科入学生よりコース制を廃止し、2年次以降は、卒業要件単位である50単位分の科目を自身でコーディネートできるようになりました。共通外国語としては、英語・中国語・フランス語・ロシア語以外にもスペイン語・ドイツ語・ロシア語・ポルトガル語・ペルシア語・アラビア語・トルコ語の11ヶ国語と、幅広い言語を修得することができます。また、「比較宗教」「地域研究」「人間と共生」「メディアと社会」「芸術・表現」の5科目群では、より専門的に「世界を学び、私を知る」ことができる多種多様な科目が開講されています。その他にもキャリア関連科目や国際ツーリズムプログラム（旅行・観光関連科目）といった科目を自身の将来を見据えて履修することが可能です。座学以外にもリサーチセミナーⅢ（実践系科目）では、多様なテーマや地域を対象にフィールドワークや海外での語学・文化研修、アートやメディアコンテンツ制作など「多様な他者をつなぐ人材」に求められる素養を身につけることができます。「リサーチセミナーⅢ」の代わりに自らが海外留学や海外インターンを予定している場合は、「海外研修（異文化交流）」を選択し、自身が設定したテーマに沿って学修します。上記科目をどのように組み合わせて履修していくかは、個人の選択に任せられていますので興味・関心や将来を見据えてコーディネートをすることができます。

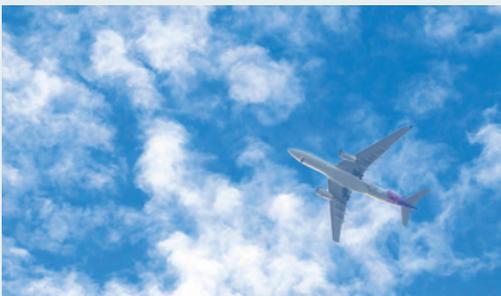
※50単位中10単位は、3年次以降に演習または国際文化Study ProjectA～Dを履修する必要があります。



4 GS IC 大手航空会社就職講師による講義

国際学部では、大手航空会社の2社から就職講師を派遣いただき、「ホスピタリティ論」「観光社会論」「国際文化学特別講義B（エアラインビジネス論）」^{※1}、「観光文化論A」^{※2}の計4科目を開講しています。旅行・観光業界そして航空業界をめざす学生にとっては、実務経験豊かな講師の講義を受講することにより、より自身がめざす進路に応じた実践的な幅広い知見を学ぶことができます。

※1 国際文化学科開講科目
※2 国際文化学科 グローバルスタディーズ学科 開講科目



5 GS IC 学部の取り組み・イベントをSNSで発信

国際学部では、学修生活における学生の取り組みや学びの姿をInstagramとX(旧Twitter)をとおして発信しています。

SNSをフォローして、よりリアルな目線での学部の学びを知ってください。



4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

世界を舞台に活躍するための 幅広い教養とコミュニケーション能力を修得する

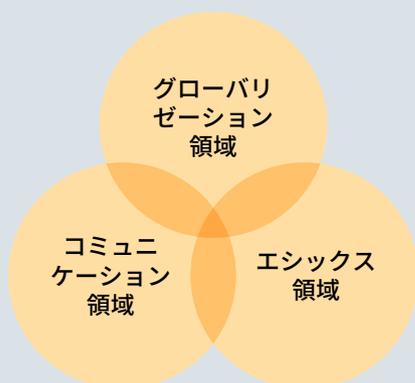
高い語学運用能力をベースに留学などで国際感覚を磨く

グローバルスタディーズ学科では、専攻科目の約90%が英語または英語+日本語で開講され、高度なコミュニケーション能力を養います。国際文化学科では、英語を中心とした11ヶ国語の幅広い外国語教育をとおして、国境や文化の違いを超えて考える力を養います。

グローバル スタディーズ学科

世界を舞台に活躍する人材を育成

グローバルスタディーズ学科では、1 Semester以上の留学※が必修、TOEIC®L&R730点などを卒業要件としています。国境を超える問題を複眼的に学ぶ専門科目教育をとおして、文化や習慣の異なる人々とのコミュニケーション能力、世界的に通用する倫理観、グローバルな視野をもった人材を育成します。



※ 留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。



国際文化学科

多様な他者をつなぐ人材を育成

『世界を学び、私を知る』をキーワードに、世界の多様な言語と文化を学び、〈私〉を取りまく文化の理解を深め、世界に向けて日本文化を発信できる人材、異なる文化間に生じる問題を調整することのできる人材、そして国際社会における多様性の尊重に貢献できる人材を育成します。そのために、学生自身の関心にもとづき、以下の5科目群等から科目を選択して学びを深めます。



	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
グローバルスタディーズ学科	外国語・学科科目の基礎をしっかりと身につける		専門的な学びに踏み込み、1セメスター以上の留学へ*		1～2年生で培った英語力を活かす専門講義科目がスタート		4年間の学びの集大成 英語による卒業論文作成へ	
	学科外国語科目		留学プログラム					
	学科基礎科目		学科専攻科目					
			グローバリゼーション領域 グローバルな視点からの知識と思考力		グローバリゼーション領域 + コミュニケーション領域		グローバリゼーション領域 + コミュニケーション領域 + エシックス領域	
			コミュニケーション領域 他国の人たちと論議できる英語力		コミュニケーション領域 + エシックス領域			
			エシックス領域 世界で通用するゆるぎない倫理観		グローバリゼーション領域 + エシックス領域			
グローバルキャリア入門		卒業時の英語力を保証 グローバルスタディーズ学科では、右のいずれか以上の点数を取得することが卒業要件の1つ。これらのスコアは、企業が英語力のある人材と認めるレベルで、就職活動の際にアピールできます。				TOEIC® L&R 730点	IELTS™ 6.0	TOEFL® iBT 80 PBT 550
リサーチ方法論A	リサーチ方法論B	プロジェクト演習	演習Ⅰ・Ⅱ		演習Ⅲ		演習Ⅳ	卒業論文
		海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ						

*留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。

	1年次		2年次		3年次		4年次		
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	
国際文化学科	大学での学びに向け、語学とその他の学びの基礎を身につける		さらに高度な外国語を学び、自分に合った科目群や科目を選択		より興味・関心に合わせた専攻科目やゼミで学ぶ		これまで取り組んできたテーマを卒論にまとめあげる		
	学科外国語科目								
	リサーチセミナーⅠ	リサーチセミナーⅡ	リサーチセミナーⅢ		専門演習A	専門演習B	卒論演習A	卒論演習B	
			国際文化 Study Project A～D						
			海外研修(北米、ヨーロッパ、東アジア、東南アジア、オセアニアなど)						
			科目群選択(以下の科目群5つから選択して履修)						
			比較宗教	仏教・キリスト教・イスラームなど世界の宗教文化の特色を理解し、共通点や相違点を比較分析する。宗教の観点から異文化理解と実践的交流をめざす。					
			地域研究	地域特有の文化や社会・経済、人々の生活を比較考察して、アジア・太平洋地域を中心とした相互理解をめざす。また、京都の地域文化を多角的に学ぶ。					
			人間と共生	人と自然、人と人の共生の現状と可能性をさぐる。グローバル化や都市化にともなう人の移動や住環境、自然や社会の変化を対象として、理論とフィールドの両面から探究する。					
			メディアと社会	グローバル化と情報化が進む現代社会におけるメディアの役割・意義・課題などを探究する。また、自ら情報を発信する際に必要となる技法や倫理を学ぶ。					
		芸術・表現	芸術をとらえて、文化を国際的な視点で学んでいく。美術、舞台芸術、文学、漫画などのアート表現を中心にそれらの理論と技法を多角的に研究する。						
		国際ツーリズムプログラム 「観光客」「観光業」「観光地」など、国際的な観点から多面的に学びます。							
		短期留学・長期留学(交換留学・私費留学・RISE Program)							

[取得可能な免許・資格]

- 中学校教諭一種免許状(英語)
- 高等学校教諭一種免許状(英語)
- 学芸員
- 本願寺派教師資格(受験資格)

[めざす職業・進路]

- グローバルスタディーズ学科
- 民間企業の国際部門
 - 国際機関職員
 - NPO/NGO 団体職員
 - 翻訳・通訳者
 - 英語科教員(中学校、高等学校)
 - 海外大学院進学

国際文化学科

- 企業(航空業、運輸業、貿易、観光業、商社、IT、石油関連)
- 英語科教員(中学校、高等学校)、学芸員、研究者
- マスメディア(テレビ、新聞、出版、広告)
- NPO/NGO 団体職員、公務員

Seminars

ゼミ紹介

グローバルスタディーズ学科 松村 省一 ゼミ

政治教育のあり方

教育研究を通じて身につく 確かな思考力と発信力

公立高校における政治教育のあり方を問う

1年次の「LGBTQ教育」に関する研究発表で自身の浅慮を指摘されたことから、教育に関する諸問題を深く研究したいと思うようになり「教育」を扱う松村ゼミを選びました。ゼミでは、各自の研究テーマを発表し、メンバー全員でそのテーマに関する議論を重ねます。多様な意見を聞くなかで私が着目したのは「日本の公立高校における政治教育の現状とこれから」です。このテーマに至ったのは、留学経験が大きく影響しています。文化的背景や環境によって生まれる価値観の違いや、留学先で出会った学生たちの政治や社会問題への高い関心に触れ、政治や社会問題に対する関心度の差を痛感したのです。グローバル社会で生きるには、まず自国に関する基礎的な学びをしっかりと固めるべきです。その手段として、高校教育の果たすべき役割は大きいと考えます。

研究活動で得られる成長は社会で活躍する原動力に

研究活動をとおして最も成長を実感するのは、自分の考えを整理し端的に発信する力です。ゼミ生との議論で受ける厳しい指摘も、研究を深める原動力となりました。辛辣なことばに発奮してさらにリサーチを重ね、自分の主張を論理的に組み立てて相手に確実に伝わるよう、発表の前段階から何度も推敲を重ねる習慣ができました。この経験は、社会でも必ず役立つに違いありません。松村ゼミは、真摯に学問と対峙し、仲間と切磋琢磨できる環境が整っています。研究活動は決して楽な道のりではありません。しかし、真面目に努力を積み重ねたいと思う人にとって、研究に没頭する2年間はきっと実りも大きいでしょう。一つのテーマと真剣に向き合い、考えを深めていく。その過程で得られる気づきと成長は、かけがえのない財産になるはずです。



藤澤 美来さん

グローバルスタディーズ学科 4年生
(京都府立東宇治高等学校 出身)

その他の研究室テーマ

- 環境対策の面から考えるファストファッションのSDGs活動の意味ー日本とスウェーデンの比較ー
- アメリカの移民と物価 移民が与える経済影響
- LGBTQ+に関するメディアの報道と世論への影響
- The use of YouTube for English Study
- Covid-19's influence on global politics and the environment
- 東ドイツの強制移住ー内部国境地域の悲劇的実相ー



国際文化学科 林 則仁 ゼミ

若者の文化継承と価値観の変化

建築への興味から広がる新たな学び 研究を深め「好き」を深化させる

建築を学ぶ楽しさが学修意欲をかき立てる

父の仕事をとおして幼い頃から建築に慣れ親しんできました。本格的に建築への興味が生まれたのは、2年次に受講した林先生の「イスラームの文化A」の講義で、壮大な建造物や鮮やかなタイル装飾、繊細な内装に心を奪われたことがきっかけです。建築を通じて異文化を学ぶ楽しさに魅了され、もっと深く学びたいと思うようになりました。ゼミでは、美術史・建築史・意匠を軸に関心のある分野を自由に選び、思い思いに研究を深めます。リサーチセミナーIIIでプレモダンとレトロ建築を学んだ経験から、私は「日本のレトロブーム」を卒業研究のテーマに決めました。当時の文化や社会を知らない若者の間で「昭和レトロ」が流行する背景には何があるのか。消費者行動や感情を読み解き、これまで繰り返されてきたレトロブームの本質に迫ります。

おもしろいという感情から学びが広がる

私の根底にあるのは「好き」という思いです。これが研究への原動力となっているのは間違いありません。林ゼミの魅力は、自由な学びの環境です。ゼミ生の研究テーマは多岐にわたり、一つとして同じジャンルはありません。だからこそ、互いの発表を聞くことで新たな視野と興味の幅が広がるのです。自分の興味や関心が誰かの学びにつながるかもしれないと考え、学修意欲は増すばかりです。私はこれまで、おもしろいと思えるかどうかを軸に、あらゆる学びを深めてきました。建築や文化もその一部です。身近なものや事象を学び直すことで、興味は思いがけない方向へと拓けます。一つの関心事から次の好奇心が生まれる学びの広がりがこそ、ゼミ活動で得た最大の発見かもしれません。これからも自分の直感を信じて学びを深めていきます。



正木 さくらさん

国際文化学科 4年生
(大阪府 上宮高等学校 出身)



その他の研究室テーマ

- 多言語習得へのアプローチと実践
— 生活環境・意欲・言語の類似性・脳機能の観点から —
- 世界で活用されるユニバーサルデザイン
- 日本が観光立国になるために
～日本の二大テーマパークから読み解く日本のおもてなし～
- 日本茶の魅力とは～世界の茶文化との比較を通して～
- 人口知能による小説制作
- アニメ聖地巡礼による観光効果—『君の名は』を例に—
- ファッションにおけるパリの存在意義
～モードの成り立ちとパリ・コレクションの影響力～

大阪府 公立高校 勤務

大阪府の公立高校で英語教諭を務めています。この道を選んだきっかけは大学時代にさかのぼります。入学当初はオールイングリッシュの授業についていだけで精一杯で、部活動が続ける余裕はないといわれるほどでした。それでも学業と野球部の活動を必死に両立させ、全国大会の出場を果たしただけでなく、一度は諦めかけた教員免許の取得も実現しました。就職活動中にゼミの先生からいただいた「より深く学んでから教壇に立てば良い」とのアドバイスで大学院進学を決意し、言語政策や外国語習得といった言語コミュニケーションを徹底的に鍛えました。厳しい環境に身を置いて自分を追い込んだ学生生活は、英語に関する専門知識以外にも、逆境を乗り越える力を備えてくれました。6年間のすべてが、英語教育に活かしているのを実感しています。

柴山 和樹さん

グローバルスタディーズ学科2020年卒業
国際学研究科言語コミュニケーション専攻
2022年修了
(大阪府 東海大学付属仰星高等学校* 出身)

*※現：東海大学付属大阪仰星高等学校



Life after G



授業はデジタル黒板で行います。現在は2年生の担任と男子ソフトボール部の指導を担当。生徒に1番近い教員であり続けることをモットーに日々努めています。

My Background



大学1年生

得意でも好きでもないのに国際学部に入學し、英語学修にもがき苦しみました。切磋琢磨できる最高の仲間と出会った時期でもあります。



大学2年生

留学先のカナダで語学と専門科目を受講し、英語力が大きく向上。同時に異文化交流をとおして価値観の違いを学び、世界が広がりました。



大学3～4年生

教員免許の取得を諦め、野球部の活動に全力投球。二度の全国大会出場を果たし、4年次には主将を務めさせていただきました。



大学院

一度は諦めた教員免許を取得。堂々と教壇に立てるよう必死に勉強しました。院進学に導いてくださった先生と支え合った仲間へ感謝です。



JAPAN AIRLINES

金子 拓未さん

国際文化学科 2020年卒業
(愛媛県立西条高等学校 出身)

raduation

株式会社ジャルパック

国内仕入営業部

本州・四国グループ 勤務

現在は、宿泊施設や観光施設との契約・仕入業務に携わっています。JALグループの旅行会社として、通常の旅行商品だけでなく、地方創生やニューツーリズムなど、多種多様な商品を仕入れています。この仕事の基礎となっているのが、大学時代の学びです。世界の文化や宗教、先住民について幅広く学び、異文化間コミュニケーションの本質に触れました。特に仏教文化への理解は、寺社仏閣が重要な観光資源となっている日本の旅行業務に直結しています。また留学などの海外経験は「世界には多様な文化や歴史、そして魅力がある」という気づきを与えてくれました。将来は海外部門で働き、在学中に感じた世界各地の魅力を旅行商品として多くの方に届けたいと考えています。海外支店での勤務も視野に入れ、グローバルな観点からツーリズムの可能性を追求したいと思います。



新規開業ホテルとの契約や既存施設の宿泊プラン作成などの業務がスムーズに進行するよう、電話やメールを介して取引先との信頼関係を築いています。

My Background



大学1年生

人生で初めてバックパックを背負い、オーストラリアへの旅へ。この1ヶ月間の経験と刺激が、自分の人生に大きな影響を与えました。



大学2年生

京都の企業とコラボした実践プログラムに参加。商品販売に関する議論を重ねました。企業の方へのプレゼンで緊張したのも貴重な経験です。



大学3年生

京都ならではの学びができる課外活動にも積極的に参加しました。英語で京都の文化を学び、外国人との交流や発表も行いました。



大学4年生

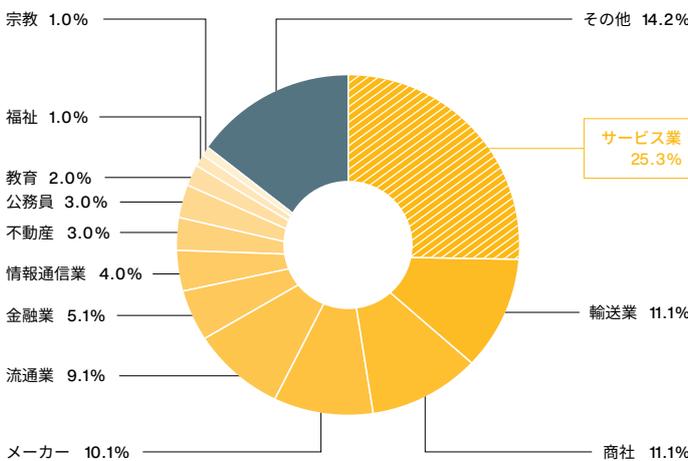
多くの外国人観光客が訪れる伏見稲荷大社の参道でアルバイト。学んだ英語をすぐ実践し、コミュニケーションスキルを磨きました。



国際学部の就職

就職状況 (2024年3月卒業生)

グローバルスタディーズ学科

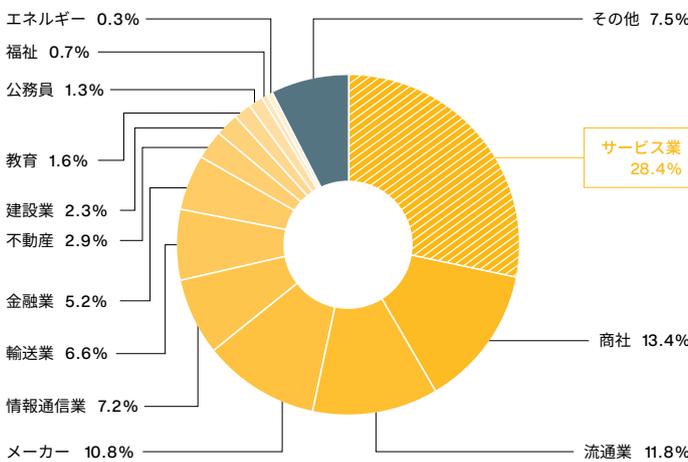


[主な就職先]

世界を舞台に活躍する人材をめざし、
教員が万全のサポートを行っています

- 三菱地所プロパティマネジメント株式会社
- オムロン株式会社
- 京セラ株式会社
- シャープ株式会社
- 株式会社村田製作所
- ANA 関西空港株式会社
- 全日本空輸株式会社
- 西日本鉄道株式会社
- 日本航空株式会社
- 株式会社ゼンショーホールディングス
- コストコホールセールジャパン株式会社
- 株式会社ニトリ
- 株式会社ファーストリテイリング
- 株式会社京都銀行
- 株式会社サイバーエージェント
- 株式会社ジェイアール西日本ホテル開発
- 株式会社JTB
- 東武トップツアーズ株式会社
- 株式会社阪神ホテルシステムズ ザ・リッツ・カールトン大阪
- 和泉市役所 など

国際文化学科



[主な就職先]

多様な世界をつなぐ人材として、
多彩な進路で活躍しています

- 東京セキスイハイム株式会社
- 株式会社神戸製鋼所
- 本田技研工業株式会社
- 森永乳業株式会社
- 関西電力株式会社
- 全日本空輸株式会社
- 東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)
- 西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)
- 株式会社大塚商会
- 株式会社ニトリ
- 株式会社丸井グループ
- 株式会社京都銀行
- 住友生命保険相互会社
- 野村證券株式会社
- Sky株式会社
- 株式会社エイチ・アイ・エス
- 株式会社JTB
- 東武トップツアーズ株式会社
- 株式会社星野リゾート
- 京都府庁 など



日本航空株式会社

(自社養成パイロット) 内定

Q. パイロットを志したきっかけを教えてください。

A. 4歳のときには、すでにパイロットを夢見ていました。航空業界をめざしていた両親と一緒に、幼い頃から飛行機に乗る機会が多く、自然とパイロットという職業に憧れをもつようになっていました。受験といった人生の分岐点では、常に「パイロットになるために何をすべきか」を考えて、進路を選択してきました。国際学部グローバルスタディーズ学科を選んだのも、夢を叶えるために苦手な英語を克服する必要があったからです。

Q. 夢を叶えるために努力したことは何ですか。

A. 苦手であった英語の克服です。留学先でも英語しか使えない環境を選び、セメスター留学という短い期間ながら、単なる言語としてではなく、コミュニケーションツールとして使いこなせるようになりました。TOEICスコアの向上にも力を入れ、語学力を着実に伸ばしてきました。友人との会話の中でもTOEICに関する話をする事で、日常的に英語学修を意識するよう努めていました。

Q. JALの自社養成パイロットを選んだ理由を教えてください。

A. JALフィロソフィという企業理念に強く共感し「ここしかない」と確信しました。「自社養成パイロット」という職種を志望したのは、航空大学のような専門機関ではなく、一般的な総合大学卒業でも挑戦できるからです。夢が叶ったからといって安心せず、「お客さま視点を貫く」姿勢を大切にしながら、お客さまに快適な空の旅を提供できる立派なパイロットになれるよう、これからも努力し続けます。

中上 陽斗さん

グローバルスタディーズ学科4年生
(大阪府 関西大倉高等学校 出身)



福岡県教育委員会 中学校 内定

**教育への情熱を胸に刻み
生徒に寄り添える先生に**

コミュニケーション学や英語四技能の高め方を学ぶなかで、教育への情熱を再確認しました。大学生活で養われた努力し続ける姿勢で就職活動に臨んだ結果、私の教育観と合致する福岡県の教育委員会から内定をいただくことができました。教師という職業に誇りを持ち、情熱を忘れず生徒に寄り添っていきます。

藤原 実咲さん

グローバルスタディーズ学科4年生
(大阪市立高等学校* 出身)
※現 大阪府立いちつ高等学校



京都府庁 内定

**地域によって違う京都の魅力を
より多くの人に知ってほしい**

まちづくりのゼミで京都の観光について研究するなかで、豊かな観光資源がある一方で人口減少という課題を抱えている現状を知りました。観光と経済活性化との関連性やオーバーツーリズム問題などを多角的に学んだ経験を活かし、京都府それぞれの地域がもつ異なる魅力を世界中に発信していきたいと思っています。

高橋 小夏さん

国際文化学科4年生
(京都府立鴨沂高等学校 出身)



西日本旅客鉄道株式会社 内定

**諦めない強い心で
安全な鉄道輸送を支える**

部活動で培った「最後まで諦めない粘り強さ」と「感謝の心」を強みとして就職活動に臨みました。内定先を志望したのは、安全な鉄道輸送で人々の日常を支えたいと考えたからです。自分の思いをまっすぐ伝えられたことが内定につながりました。今後も感謝の気持ちを忘れず、自らの職務に全力を尽くします。

大浦 瑞季さん

国際文化学科4年生
(和歌山県立向陽高等学校 出身)

深草キャンパス

京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-5645 world@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約42分

京阪「京橋」駅 → 約41分

近鉄「奈良」駅 → 約43分

JR「三ノ宮」駅 → 約63分

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一步を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 国際学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育てる。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け入れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.world.ryukoku.ac.jp>

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2025年4月発行